

報道各位

2024年8月26日
小杉放菴記念日光美術館



1 《男体晩秋》1980年代 個人蔵

生誕 100 記念 古橋義朗展——日光に生きた水彩画家

2024年11月30日〔土〕-2025年2月2日〔日〕

休館日	毎週月曜日（1月1～3日は特別開館。1月13日祝日は開館し、1月14日を休館） 年末休館 12月29日～31日／年始休館 1月4日～6日
開館時間	午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料	一般 730（650）円、大学生 510（460）円、高校生以下は無料 ※（ ）内は 20名以上の団体割引料金 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料 ※第3日曜日「家庭の日」（12月15日、1月19日）は、大学生・専門学校生以下無料 ※元日のみ入館無料となります。 ※日光市民は一般 300円、大学生 200円、高校生以下無料
主催	公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館／日光市／日光市教育委員会／下野新聞社
お問い合わせ	小杉放菴記念日光美術館 TEL:0288-50-1200 Fax.0288-50-1201 〒321-1431 日光市山内 2388-3 担当：学芸課 迫内祐司 sakouchi-yuji(a)khmoan.jp ※(a)を@に変更してください。

■ 展覧会概要

古橋義朗（1924-2006）は、戦後から現代にかけて、日光の美術を牽引した水彩画家です。日光町で明治初期から続く古橋旅館に生まれ、油絵を独学。やがてこの地を訪れた春日部たすくを知り、彼と同じ水彩画家を目指すようになります。

戦後、日光の画家たちによる美術グループ「青光会」に参加。また、油絵に負けない水彩画を描くことを志し、全国的な公募団体である「旺玄会」にも出品、受賞を重ねていきました。これ以降は、晩年までこの両会を主な舞台として活躍。栃木県芸術祭では長年審査員を務め、日光スケッチ同好会を指導するなど、県内美術の発展にも尽力しました。

古橋が描く日光の山々を始めとする水彩画は、筆が画面を縦横無尽に駆けまわり、その自由奔放な描写は、どこか水墨山水にも通じる感性を感じさせます。実際、1980年代には水墨画で男体山や海外風景を盛んに描いていた時期があり、それらもまた本職の日本画家とは異なる、素朴ながらも力強い魅力を放っています。晩年になると、さらなる日光の風景を求めて滝や杉並木を描き、大谷川ぞいのススキの美しさに夢中になりました。

本展は2005年に当館で開催した「日光に生まれた作家たち III 古橋義朗展 四季の詩情一旅とともに」以来19年ぶり、没後としては初の回顧展となります。日光に生まれ、日光を描き続けたこの水彩画家の、新発見を含む初期作品から晩年までの作品80点余から振り返り、この日光に古橋義朗という画家がいたことを再確認します。

■ 会期中のイベント

① クロス・トーク「古橋義朗を知っていますか？」

岩本佳子（画家）× 迫内祐司（当館学芸員）

2025年1月25日 [土] 午前11時より（1時間程度）

日光スケッチ同好会で古橋先生から指導を受けた岩本さんにお話をうかがいながら展示室をまわり、古橋作品の魅力を探っていきます。

② 担当学芸員によるギャラリー・トーク

11月30日 [土]、12月22日 [日]

各時間＝午前11時より（1時間程度）

※①②とも入館券をお求めのうえ、お時間までに美術館受付前にお集まりください。

■ 本展の見どころ

1. 没後初の回顧展

古橋義朗は日光の戦後美術を牽引した代表的な画家です。本展は 2006 年に亡くなってから、初めてとなる回顧展となります。

2. 発見された初期作品

本展実現に向け、学芸員が遺作を徹底的に調査中し、長年眠ったままになっていた 1950～1960 年代の作品を多数発見！本展ではこうした初期作品にとくにスポットを当てます。

3. 日光に古橋義朗あり！

さらに晩年までの作品 80 点余を丁寧に追うことで、その画業の全体像を明らかにし、日光に古橋義朗という個性的な水彩画家がいたことをアピールします。

■ 古橋義朗 略年譜

1924 (大正 13) 年 0 歳

10 月 1 日、日光御幸町の古橋旅館に生まれる。のち油絵を独学し、日光旅行に来た水彩画家の春日部たすくと出会ったことで水彩画に転向する。

1950 (昭和 25) 年 26 歳

6 月、油絵に負けない水彩画の制作をめざし、旺玄会展に出品、受賞を重ねていく。晩年まで出品。

1958 (昭和 33) 年 34 歳

11 月、銀座の櫛画廊 (24-29 日) にて初個展を開催。日光の山野を描いた水彩画約 20 点を発表する。

1959 (昭和 34) 年 35 歳

11 月、第 13 回栃木県芸術祭洋画展 (22-26 日、宇都宮市・栃木会館ギャラリー) で審査員を務め、1973 年まで務める。

1962 (昭和 37) 年 38 歳

この頃、栃木県の洋画家たちと「集団 NOA」を結成。数年間、銀座でグループ展を開催する。

1980 (昭和 55) 年 56 歳

初めてヨーロッパを写生旅行する。

1988 (昭和 63) 年 64 歳

中国を写生旅行する。

1998 (平成 10) 年 74 歳

大谷川河畔のすすきの連作を描き始める

2005 (平成 17) 年 81 歳

2 月、「日光市制施行 50 周年記念 日光に生まれた作家たちⅢ 古橋義朗展 四季の詩情一旅とともに」が小杉放菴記念日光美術館にて開催される。

2006 (平成 18) 年 82 歳

12 月 12 日、逝去。



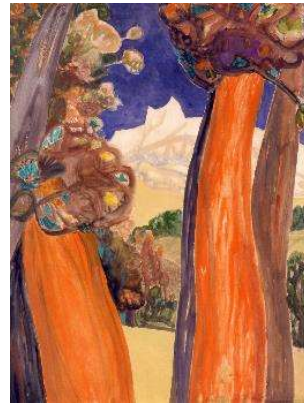
2. 《日本杉》 1959年頃 個人蔵



3. 《鳥海山》 1961年 個人蔵



4. 《赤い木のある風景》 1961年頃 個人蔵



5. 《赤い杉》 1960年代 小杉放菴記念日光美術館蔵



6. 《雲かゝる男体》 1984年 小杉放菴記念日光美術館蔵



7. 《男体》 1980年代 個人蔵



8. 《裸婦》 1980年代 個人蔵



9. 《枯る頃》 1999年 小杉放菴記念日光美術館蔵

生誕 100 記念
古橋義朗展——日光に生きた水彩画家
広報用画像申込書

FAX: 0288-50-1201
E-mail: sakouchi-yuji(a)khmoan.jp ※(a)を@に変更してください。
小杉放菴記念日光美術館 迫内行

■ 画像ご使用に際してのお願い

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れて、FAX かメールにてお送りください。
- ・使用目的は、本展のご紹介のみに限ります。
- ・画像は、原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、文字のせは無断で行なわないよう、お願いいたします。
- ・掲載する場合は、作者名と各画像のキャプション、著作権表示がある場合は©以下を必ず記載してください。
- ・画像のご使用は1申込につき1回とし、使用後のデータは破棄してください。
- ・基本情報確認のため、展覧会担当まで一度校正紙をお送りください。
- ・掲載見本を展覧会担当までご送付いただきますよう、お願いいたします。

✓	No.	作品
	1	《男体晩秋》1980年代 個人蔵
	2	《二本杉》1959年頃 個人蔵
	3	《鳥海山》1961年 個人蔵
	4	《赤い木のある風景》1961年頃 個人蔵
	5	《赤い杉》1960年代 小杉放菴記念日光美術館蔵
	6	《雲かゝる男体》1984年 小杉放菴記念日光美術館蔵
	7	《男体》1980年代 個人蔵
	8	《裸婦》1980年代 個人蔵
	9	《すゝきの頃》2000年 個人蔵

貴社名： _____

掲載メディア： _____

ご担当者名： _____

Tel： _____

Fax： _____

E-mail： _____